

## CMHヘリスキーに魅せられて

仲原 敬一郎さん  
(Mr. Keiichiro NAKAHARA)  
佳子さん  
(Ms. Yoshiko NAKAHARA)  
静岡県沼津市在住

パタパタパタ…… 轟音と粉雪を舞い上げながらヘリは消えて行った  
一瞬の静寂…… 膝まで雪に埋まりながら頭を上げ辺りを見まわす  
何という光景！ 360度雪の嶺峰、3,000m級の頂が紺碧の空に林立している  
どこまでも続く雪の斜面、キラキラ輝く神秘的な美しい景色にしばし見とれる  
ガイドの“Let's go”の声に促され、不安と恐怖心の交差した状態で斜面に飛び込む  
身体は宙に浮き粉雪の中に沈む、全身で雪の感触を確かめながらターンする  
歓喜と感動は次第に高まり“キャッホー！”と奇声を挙げながら、  
ただただ夢中でシュプールを刻む  
1990年3月、カナディアン・ロッキー・CMHヘリスキー初体験の感激です



いつも奥様と一緒に仲むつまじい仲原さんご夫妻

### スキーへの関わりと パウダースノーへの憧れ

冬山登山の為にスキーをマスターしようとして、スキーツアーに友人と夜行列車で野沢温泉スキー場へ出かけた。登山の服装で、シユラフ、米、食料、炊飯道具一式をキスリングに背負い込んだ。スキーはスポーツ店でレンタル。スキー板、カンダハリ靴、日本竹ストック、スキー靴（ゴム製紐締め）である。山小屋宿泊と思つての装備だったが、温泉旅館へ宿泊したので大感激であった。以来、冬山よりもスキーの方にのめり込んでいった。

昭和30年代（1957年頃）、関、燕、妙高赤倉スキー場の積雪は多かった。妙高池の平カヤバススキー場、リフト運行の朝一番、シールを付け

て頂上を目指す。静寂と神秘、雪の白と藍の美しさに疲れも感ぜず大自然の中に溶け込んでいく。当時、スキー場のコースはあまり手入れ（圧雪）されず、自然降雪の状態であった。木製スキー板は2メートルと長く、回転性能は悪かったが、深雪をあまり曲がりもせず、スピードをつけて滑り、また転ぶ愉しきは格別であり醍醐味でもあった。白馬八方、黒菱の斜面もパウダースノーを楽しめた。雪面から一瞬空中に飛び出す浮遊感、雪に埋もれ見上げると雪を透して太陽が青白く見える。囲われ規制されたスキー環境に、何か物足りなさを感じる昨今でもある。シールを付け野山を駆け巡ったあの山スキーツアーは何処へ行ったのか？パウダースノーの思いは募っていた。

スキー雑誌でカナダヘリスキーツアーを知り、せむ体験したいと思いは募った。申込み即参加できるものと旅行会社に申込みをしたところ、来シーズンの予約申込みをしなければ参加できぬとの連絡には驚いた。パンフのCMH本社に来シーズンの予約申込みを行ない、同時に旅行会社にも手配した。現在はCMHジャパン（株）が一切の手配をしてくれるので有難い。

### CMHへの道は遠く 初海外スキーはウイスラーへ

こうして1989年、カナダCMHヘリスキー行きの計画をするも一年先となり、急遽ウイスラースキー場行きを決めた。初めての海外スキーで期待に胸が膨らんだ。通年リゾート地として開発されたウイスラー・ブラッドコムスキー場、その規模の大きさ、設備には目をみはった。制限されたスキー場とはいえ、バックボウル、オフピステは日本のスキー場とは比較にならない。何処でも滑れる。但しロープ外は「Own my risk」である。整備されたコースを少し外れれば、そこにはフカフカの斜面が広がる。初めての海外スキーとはいえ、今更ながらスキー場の規模、設備の違いを感じた。身体の元気なうちに世界の主なスキー場巡りをしたいと、思いを強くした。

一年越しの夢が実現  
念願のカナダCMHヘリスキー

世界中で最もエキサイティングなスポーツ、ヘリスキーに胸は躍った。朝から夕までスキーを滑る。しかもヘリコプターがリフト代わり。



CMHのヘリスキーは何と言ってもスケールが違う



カナダ・ロッキー山脈、ボビーバーンズのヘリスキー

### CMH HELI-SKIING とは……？

CMHヘリスキーはカナダ、ブリティッシュコロンビア州ロッキー山中の11ヶ所に点在するロッジに滞在して連日山スキーを楽しむもので、1日だけのオプション・ヘリスキーとは異なります。各ロッジには世界中から集まったスキーヤーたちが東京都とほぼ同じ広さのオフビステを44人で一週間貸り切り、100本~200本のコースをヘリコプターを使って滑るのです。ガイドやパイロットを始めとする25人のスタッフはスキー、食事、宿泊にいたるまでクオリ

ティーの高いサービスを提供します。ヘリコプターをリフト代わりに、手つかずの山々を滑る自由がここにあります。

■CMHジャパン(株)  
〒280-0807 千葉県成田市北羽鳥2028-1  
キャスケード・キャビン  
☎0476-37-1311 ☎0476-37-1312  
e-mail heli-ski@cmhjapan.co.jp  
URL http://www.cmhjapan.co.jp

一週間の保証滑降標高差は30,500メートルである。スキーヤー44名が各々の技術、体力、年別別の4班に分かれ、ガイドの指示に従い9時頃から17時頃まで体力の続く限り滑るのである。

私たちが最初に参加したのは「バガブロッジ」で、ここはヘリスキー発祥の地である。氷河の末端に建つこのロッジからは、朝夕黄金色に染まる何とも雄大な景色が望め、時の経つのも忘れ見惚れてしまうほどであった。ロッジ設備は町中のホテルと遜色なく快適である。部屋の施設はない。食事は種々メニューに富み美味しく、ご飯、味噌汁の出ることもある。特筆すべきは、ガイド、スタッフの暖かいもてなしと、嬉しい気配りである。言葉の障害も、帰る頃には全く気にならなくなった。

パウダースキー・オープンスロープをイメージしていたが、コースは様々である。大半はパウダースノーであるが、コーンスノー、アイスバーン、悪雪ハニースノーなど、自然の条件は実に様々。林間滑降は、深雪滑走では最もエキサイティングであり面白いが、注意が重要である。いったん転倒すると、どうにもならない。木々の根元の穴にでも埋まったなら蟻地獄である。92年には、センター巾10センチの幅広スキー(アトミック社製スキー)が登場した。身長の高さくらいで扱い易く、深雪でも容易で安定感があり、これによってずいぶん愉しさが倍増した。

### 2度目のCMHヘリスキーで突然起こったハプニング

山岳スキーのコースはあらゆる斜面を滑降するので、楽しさと危険は

表裏一体である。ホワイトアウトで大転倒。スノーホールに転倒など、ハプニングは起こる。

2度目のツアー、2月の深雪で私の妻「佳子さん」が膝靭帯を損傷した。本人はあまり気落ちした様子ではなかったが、私が動転してしまった。日本へ如何して連れ帰るのか、考える程に気持ちは落ち込んでいった。ロッジには救急医薬品が常備してあり、それなりの処置のできるスタッフもいた。幸いなことにスキーヤーの中に整形外科医がいて、適切な処置を施された。

いよいよ1週間が過ぎ帰りの日が来た。ギブスを詰められヘリ(30分)に乗った。麓のヘリパッドでカルガリ行きのCMH専用バス(6時間)に乗りこみ、カルガリ空港前のホテルに到着して一泊する。空港とホテルは廊下続きになっているので車椅子でも難なくチェックインできた。航空機乗り込みもVIP待遇で、一番先で広い席に案内された。バンクーパー空港での乗り換えも女性の係員が機内から面倒をみて案内してくれた。空港のあの広い乗り換えゾーンを、早く走る車椅子の後を汗だくでついていった。

成田空港に無事到着、一抹の不安が過ぎる。男性係員が機内まで来て車椅子に乗せられ特別な通路よりロビーまで出る。土産物のサーモンが宅急便で送れず両手にいっぱいである。エレベーターで成田エクスプレスのホームに案内され、車椅子から「佳子さん」は降ろされた。松葉杖で東京駅に降りた。帰宅した時は全身汗ビショリだった。今でも忘れられないボビーバーンズヘリスキーであった。

### これから大切にしたい生涯スキーと仲間

スキーに熱中したくてサラリーマンから自営業へと転身。指導員資格取得と国体壮年組選手、地域スキー団体と県スキー連盟に関わり、50歳の体力を試そうと18年前にトライアスロンを始め、世界選手権出場。地域団体を創設し、県下組織を作り、国内、海外スキーツアー、全日本スキーマスターズ大会と転戦している。どこへ行くにも「佳子さん」と一緒である。年を重ねつくづく趣味が一緒であって良かったと思っている。現在孫(2年生)にスキーを仕込み中。将来、海外スキーに家族で出かけたいと計画。体力、気力の続く限り三浦敬三さんを目標に、いつまでも若々しくスキーを楽しみたいと考えている。

### ●投稿インフォメーション

シニアスキーフォーラムでは長年素晴らしいスキーライフを送られているシニアスキーヤーの方々のスキー人生論や、心に残る旅のエッセイを募集します。我こそはと思われる方、投稿をお待ちしております。【約3500文字程度で手書き、ワープロなどフォームは問いません。実名・住所・電話番号など連絡先を明記してください】

尚、「シニアでも楽しめるスキークラブ探しています」「シニアスキーヤー大歓迎のクラブメンバー募集」などシニアスキーヤーの方々の情報交換、コミュニケーションの場としてお便りを募集しますのでどしどしお寄せください。

宛先：株式会社ノースランド出版 スキーグラフィック編集部  
シニアスキーフォーラム投稿係  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-15 木下第2ビル